

# 領域「環境」における栽培活動と小学校生活科における栽培活動の 教育的効果についての研究

－就学前教育と小学校教育との接続を視点として－

久米 央也\*

滋賀短期大学 幼児教育保育学科

Study on Educational Effects of Cultivation Activities in the Field "Environment" and  
Cultivation Activities in Elementary School Life Studies

－From the viewpoint of connection between preschool education and elementary school  
education－

Hideya KUME\*

Department of Early Childhood Care and Education, Shiga Junior College,

抄録：幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいにおいて「身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ」とある。また、小学校学習指導要領生活科の内容において「植物を育てる活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもつ」とある。これらを反映すべく、園や小学校では植物の栽培が盛んに行われている。そこで、就学前教育と小学校教育における植物の栽培活動の実態とその教育効果について指導者はどう考えているかの調査を行い、園と小学校の相違点を分析し考察していく。それぞれの教育効果を明らかにしていくことで、就学前教育と小学校教育を「学び」で接続していく重要性を明らかにしていく。その結果、就学前教育と小学校教育における栽培活動のねらいと内容の相違点が明らかになり、お互いの接続を意識した栽培活動の重要性が明らかになった。

キーワード：幼児教育，小学校教育，領域「環境」，生活科，幼小接続

## 1. はじめに

平成30年度よりスタートした幼稚園教育要領<sup>1)</sup>，保育所保育指針<sup>2)</sup>，幼保連携こども園教育・保育要領<sup>3)</sup>において，自然とのかかわりについては多くの紙面を占めている。例えば，幼稚園教育要領

---

\* E-mail: h-kume@sumire.ac.jp

第2章3 身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」において次のように述べられている。

(「自然」に関する箇所を抜粋)

1 ねらい

(1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。

2 内容

(1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。

(3) 季節により自然や人間の生活に変化があることに気付く。

(4) 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。

(5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。

3 内容の取扱い

(2) 幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然とのかかわりを深めることができるよう工夫すること。

(3) 身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分からかかわろうとする意欲を育てるとともに、様々なかかわり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にする気持ち、公共心、探求心などが養われるようにする。

また、幼稚園教育要領解説<sup>4)</sup>では、第2章3 身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」の内容の取扱い(3)の解説において「例えば、植物の栽培において、その植物が皆の世話によって徐々に生長していくにつれて、生命のあるものを大切にしようとする気持ちと同時に、皆と一緒に育てたから大切にしなければならぬといった気持ちも持つようになってくる。また、植物が生長する姿を通して、どんな花が咲くのだろう、どんな実がなるだろうなど、探求心も湧いてくる。このような様々な気持ちを引き起こすような豊かな環境の構成と身近な事象や動植物とのかかわりを深めることができるように援助することが大切である。」と述べている。

このように、幼児教育において自然にかかわること、その中で「植物を育てること」の意味は大きいことがわかる。

2020年度よりスタートする小学校学習指導要領<sup>5)</sup>では第2章第5節「生活」において自然とのかかわりに関する内容が次のように明記されている。

第2章第5節 生活 第2 各学年の目標及び内容

1 目標

(2) 身近な人々、社会及び自然と触れ合ったりかかわったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。

## 2 内容

- (5)身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわったりする活動を通して、それらの違いや特徴を見つけることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることなどに気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。
- (6)身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。
- (7)動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命を持っていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

また、平成27年に改正された食育基本法<sup>6)</sup>では、食に関する体験活動と食育推進活動の実践について第6条において次のように明記されている。

### 食育基本法 第6条

食育は広く国民が家庭、学校、保育所、地域その他のあらゆる機会とあらゆる場所を利用して、食料の生産から消費に至るまでの食に関する様々な体験活動を行うとともに、自ら食育の推進のための活動を実践することにより、食に関する理解を深めることを旨として行わなければならない。

とある。就学前教育から、植物の栽培(特に野菜の栽培)活動を通して生産から消費までの直接体験を行うことの重要性を述べている。

これらのことから、就学前教育においても、小学校教育においても植物の栽培活動には大きな教育的効果が期待されることがわかる。

しかしながら、幼児教育現場、小学校現場を見てみると、それぞれの園、学校で植物の栽培活動は必ず実践しているが、幼稚園や保育園、小学校のお互いの栽培活動の詳しい内容を理解せず、例年通りの野菜などの植物を育てているのが現状である。例えば隣接する幼稚園、小学校で同じようにアサガオの鉢が置いてあり、同じように育てている場面に出くわすことがある。それぞれの園・学校がそのことをわかったうえで、どのような教育的効果を期待して実践しているのか疑問である。

そこで、M市の幼稚園、小学校教員に調査を依頼し、植物栽培活動の実態と、教員がその教育的効果をどのようにとらえているのかを調査し、就学前教育と小学校教育の相違点を明らかにするとともに、よりよい接続のあり方について考察していく。

## 2. 栽培活動における教育的効果について

### 2.1 幼稚園教育要領と小学校指導要領の比較

幼稚園教育要領解説と小学校指導要領解説「生活編」<sup>7)</sup>において、植物の栽培の教育的効果についてどのように記されているのかについて分析し考察する。

幼稚園教育要領解説 内容(1)の解説では、「自然と出会い感動する様な体験は、自然に対する畏敬の念、親しみ、愛情などを育てるばかりではなく、科学的な見方や考え方の芽生えを培う上で基礎となるものである」とある。(p195)また、内容(3)の解説では「季節により自然や人間の生活に変化があることに幼児なりに関心を持つようにすることが大切である」と書かれている。(p197)内容(5)の解説では「幼児は次第に生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりするようになっていく」とある。(p199)(下線筆者)幼児期に自然と触れ合い、植物を育てることの教育的効果は次のようにまとめることができる。

- ・自然に対する畏敬の念 ・自然への親しみ ・自然への愛情
- ・科学的な見方考え方の芽生え ・季節による変化への気付き、関心
- ・生命の尊さ ・生命へのいたわり ・生命を大切にする心

次に小学校学習指導要領解説「生活編」第3章第2節 生活科の内容(7)において、自然と触れ合い、植物を育てることの教育的効果について次のような記載がある。

「植物を育てる活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命を持っていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にできるようにすることを目指している」(p43)

「植物を育てることは、植物の日々の成長や変化、実りが児童に生命の営みを実感させる。継続的に世話をし、繰り返し関わる過程で、生命あるものを大切にすることを育む価値ある体験となり、そのことが生命の尊さを実感することにつながる」(p44)

「植物が育つ中でどのように変化し成長していくのか、どのような環境で育っていくのかについて興味関心をもって、動植物に心を寄せ、よりよい成長を願う。栽培の過程において児童はもっと上手に育てたい、という願いをもつ。そして、その願いを実現するために、土、水、日照、肥料といった植物の生育条件に目を向けるようになる」(p44)

「さらに児童は、「違いがあるぞ」と変化や成長の様子を比べたり、「多分そうだろう」と予想して見通しを立てたり「どうしてほしいのかな」と植物の立場に立って考えたりするようになる。また、自らの働きかけに対して「どうだったかな」と反応や結果を考えたり、継続してきた活動を振り返って「だからそうなんだ」と自分とつなげて考えたりするようになる」(p44)

これらのことから小学校低学年において自然と触れ合い、植物を育てることの教育的効果は次のようにまとめることができる

- ・植物の日々の成長変化の様子に気付く ・生命を持っていること、成長していることを実感
- ・生命あるものを大切にすることを育てる ・生命の尊さを実感 ・継続してきた活動を振り返る
- ・植物の生育条件に目を向ける ・見通しを持ち、植物の立場になって考える

## 2.2 先行研究

幼児教育・小学校教育・保育者養成校における植物を栽培することの教育的効果については数々の先行研究がある。

古郡，山口（2012）らは幼児期における栽培活動の教育の目的として次の様に述べている。<sup>8)</sup>

- ・野菜の好き嫌いの解消を促す。　・五感を使うことができ発達を促す。
- ・園児が食べ物に興味を持つ機会となる。　・自然に触れることから豊かな感性の育成となる。
- ・野菜を育てながら，命を育てる実感を持たせる。

また，木田，武田，荒川(2016)らは，幼稚園での調査を基にして，野菜栽培を実施した園は実施しなかった園と比較して，偏食を改善した者の割合が有意に高い」という結論を述べている。<sup>9)</sup>

さらに，酒井，守(2016)らは，幼児の植物との関わりの事例の中で，「子どもは植物の生長過程を予想し，心をワクワクさせながら観察することで，新たな変化に気付く姿を見せたり，更なる探求心を生んだり，自らの発見を友だちや保育者と共有する喜びを感じたりすることなど，様々な関わりを体験できる」と述べている。<sup>10)</sup>

小学校における研究では，寺内，竹本，佐伯らが，小学校第3学年「大豆の栽培」における児童意識調査を実施している。その結果，「実際に栽培を体験することでその難しさや大変さ，厳しさを乗り越えて達成感を感じさせる工夫が大切であること，友だちとの関わりが学びの重要な要素であること」などを明らかにしている。<sup>11)</sup>

位田(2017)は保育内容「環境」受講大学生の野菜栽培活動に関する教育的効果を明らかにする研究を行った。野菜栽培活動を通しての気付きや学びについて，質問紙調査や振り返りレポートの検討をもとに調査研究している。その結果，栽培活動開始後は継続栽培に苦勞し栽培知識不足から反省の記述が多くなるが，苦勞したことで野菜の成長に感動し愛着も生まれる。さらに保育者を目指す学生の栽培体験の必要性と子どもの栽培体験の重要性に気付き，将来保育者となる自分のあり方や栽培体験の必要性を認識する教育的効果があることが示されている。<sup>12)</sup>

## 3. 植物栽培活動に関する調査方法

### 3.1 調査対象と方法

2019年6月に守山市内の幼稚園・こども園，小学校に赴き，園長，校長に調査の目的・方法等の説明を行い調査協力を依頼した。(幼稚園こども園7園，小学校5校)6月にアンケート用紙を配布し7月末に郵送により回収した。調査対象は，幼稚園・こども園正規職員(嘱託も含む)小学校正規職員(年間講師も含む)および園長，校長，教頭などの管理職であり，発送数，有効回答数，有効回答率は表1の通りである。

表 1. 調査対象数と回収率

サンプル	合計	幼稚園・こども園	小学校
発送数	243	69	174
有効回答数	222	67	155
有効回答率	91%	97%	89%

### 3.2 研究目的

幼稚園・こども園における植物栽培の実態・教育的効果と小学校における植物栽培の実態・教育的効果に対する意識を比較検討するために、アンケート調査を実施し分析考察を行った。

### 3.3 アンケート内容

- ①今までの経験年数
- ②担任した年齢・学年の回数
- ③今までの植物栽培経験（年齢，学年別）
- ④植物を栽培することの教育的意義はあるか。  
（とてもある・まあまあある・あまり期待できない・期待できない）
- ⑤植物を栽培することで、どのような教育的効果が期待できるか。（複数選択回答可）

・命，自然を大切にすること ・知的好奇心 ・科学的な見方，考え方 ・観察力  
 ・栽培に関する知識，技能 ・自立心 ・協同性 ・豊かな感性 ・表現力  
 ・言葉による伝え合い ・社会生活とのかかわり ・道徳性，規範意識

- ⑥ 上記以外に考えられる教育的効果  
（自由記述）
- ⑦アサガオを栽培するのはどんな力を育てるために行っているのか。  
（自由記述）

## 4. 植物栽培活動に関する調査結果

### 4.1 幼稚園・こども園での植物栽培の実態について

3歳4歳5歳の各クラスにおいて、どのような野菜や草花を栽培したかを記入してもらった。

（3歳を担任経験43名 4歳担任経験教員49名 5歳担任経験教員44名）

表 2-1. 3 歳児クラスの栽培した野菜と草花

クラス	野菜	回答数	草花	回答数
3 歳児 担任経験 43名	ミニトマト	32	アサガオ	9
	キュウリ	24	チューリップ	7
	サツマイモ	17	フウセンカズラ	6
	ほうれん草	12	ヒマワリ	2
	いちご	9	ヒアシンズ	2
	ラディッシュ	8	パンジー	1
	ニンジン	7	ムスカリ	1
	ハツカダイコン	6	7種類	28
	トマト	5		
	ナス	5		
	ブロッコリー	5		
	オクラ	3		
	キャベツ	2		
	ジャガイモ	2		
	チンゲンサイ	1		
	ツタンカーメン豆	1		
	トウモロコシ	1		
	ピーマン	1		
サニーレタス	1			
	18種類	142		

表 2-2. 4 歳児クラスの栽培した野菜と草花

クラス	野菜	回答数	草花	回答数
4 歳児 担任経験 4 9 名	キュウリ	24	チューリップ	20
	ナス	24	ヒマワリ	19
	ポップコーン	23	フウセンカズラ	17
	サツマイモ	22	アサガオ	13
	いちご	21	ヒアシンス	9
	ミニトマト	19	ムスカリ	8
	ジャガイモ	19	パンジー	3
	ピーマン	19	ホウセンカ	3
	ラディッシュ	16	オシロイバナ	3
	タマネギ	15	クロッカス	2
	トマト	13	ビオラ	2
	オクラ	13	シソ	1
	落花生	13	ヒョウタン	1
	スナップエンドウ	8	レモンバーム	1
	エダマメ	7	サクラソウ	1
	ハツカダイコン	6	ピンクタンポポ	1
	ほうれん草	5	ホオズキ	1
	ニンジン	5	シロツメ草	1
	キャベツ	3	ストロベリーキャンドル	1
	ソラマメ	3	クリサンセマム	1
	ブロッコリー	2	20 種類	108
	チンゲンサイ	2		
	カボチャ	2		
	スイカ	2		
	ズッキーニ	2		
	コマツナ	1		
	ゴーヤ	1		
		28 種類	290	

表 2-3. 5 歳児クラスの栽培した野菜と草花

クラス	野菜	回答数	草花	回答数
5 歳児 担任経験 49名	キュウリ	28	チューリップ	11
	ナス	27	ビオラ	11
	オクラ	27	パンジー	9
	ピーマン	25	ムスカリ	8
	サツマイモ	21	アサガオ	7
	ミニトマト	21	ヒアシンシス	7
	大根	20	デイジー	6
	ジャガイモ	17	ヒマワリ	5
	トマト	17	フウセンカズラ	2
	タマネギ	12	オシロイバナ	2
	いちご	11	ヒョウタン	2
	ラディッシュ	11	ホウセンカ	1
	ニンジン	10	菜の花	1
	エダマメ	7	アリッサム	1
	ポップコーン	6	綿花	1
	スナップエンドウ	6	ノースポール	1
	ブロッコリー	6	オジギソウ	1
	カボチャ	5	スターチス	1
	ゴーヤ	5	ナデシコ	1
	パプリカ	4	クロッカス	1
	ソラマメ	4	忘れな草	1
	ほうれん草	3	21種類	80
	スイカ	3		
	落花生	2		
	みかん	1		
	モロッコインゲン	1		
	あずき	1		
	サニーレタス	1		
28種類	303			

3歳児クラスは主にミニトマトやキュウリといった夏野菜が多く、草花ではアサガオやフウセンカズラが多い。ミニトマトやキュウリ、アサガオやフウセンカズラは育てやすく生長の変化が見えやすいことから3歳児に適していると思われる。

4歳児、5歳児になると、植える種類と数が多くなる。様々な野菜や草花に触れる機会を多くとるようにしていると考えられる。

就学前では、教科書がないことから、どんな植物を育てるかについて教育要領のねらいに照らし合わせて、決めている。

では、次に小学校における植物栽培の実態について調査した。

#### 4.2 小学校での植物栽培の実態について

アンケート調査により、155名の回答から各学年で栽培経験のある植物についてまとめたのが次の表3である。

表3-1. 小学校1年生における各学年別植物栽培の実態

学年	野菜	回答数	草花	回答数
1年生 担任経験 108名	サツマイモ	58	アサガオ	101
	大根	4	チューリップ	58
	トマト	3	ヒアシンズ	9
	キュウリ	1	ヒマワリ	3
	なす	1	スイセン	3
	ピーマン	1	ヒアシンズ	2
	スイカ	1	クロッカス	2
	メロン	1	オシロイバナ	5
	ラディッシュ	1	パンジー	2
	落花生	1	ダリア	2
	トウモロコシ	1	マリーゴールド	2
	コンニャクイモ	1	オジギソウ	1
	12種類	74	フウセンカズラ	1
			サルビア	1
			ホウセンカ	1
		15種類	193	

表 3-2. 小学校 2 年生における各学年別植物栽培の実態

学年	野菜	回答数	草花	回答数
2 年生 担任経験 114 名	トマト	51	ヒマワリ	8
	キュウリ	57	チューリップ	2
	なす	82	パンジー	1
	プチトマト	76	ヒアシンス	1
	オクラ	66	ケナフ	1
	シシトウ	11	綿	1
	ピーマン	81	6 種類	17
	サツマイモ	15		
	大根	40		
	トウモロコシ	7		
	キャベツ	8		
	枝豆	2		
	落花生	3		
	スイカ	2		
	ラディッシュ	2		
	大豆	2		
	ゴーヤ	3		
	その他	5		
18 種類	513			

表 3-3. 小学校 3 年生における各学年別植物栽培の実態

クラス	野菜	回答数	草花	回答数
3 年生 担任経験 103 名	キャベツ	13	ホウセンカ	97
	ピーマン	10	ヒマワリ	32
	その他	8	マリーゴールド	28
	サツマイモ	3	綿	3
	キュウリ	2	フウセンカズラ	3
	12 種類	36	へちま	3
			その他	4
		9 種類	17	

表 3-4. 小学校 4 年生における各学年別植物栽培の実態

学年	野菜	回答数	草花	回答数
4 年生 担任経験 94 名	ゴーヤ	17	ヘチマ	84
	キュウリ	5	ヒョウタン	20
	ジャガイモ	4	ヒマワリ	3
	サツマイモ	4	その他	5
	その他	8	8 種類	112
	12 種類	36		

表 3-5. 小学校 5 年生における各学年別植物栽培の実態

学年	野菜	回答数	草花	回答数
5 年生 担任経験 63 名	コメ	23	ヘチマ	5
	インゲン豆	18	アオバナ	1
	サツマイモ	13	あい	1
	カボチャ	8	なのはな	1
	スイカ	3	ハマヒルガオ	1
	ジャガイモ	2	ヒョウタン	1
	トウモロコシ	2	キク	1
	その他	8	8 種類	11
	15 種類	77		

表 3-6. 小学校 6 年生における各学年別植物栽培の実態

学年	野菜	回答数	草花	回答数
6 年生 担任経験 38 名	ジャガイモ	22	きく	2
	サツマイモ	6	ホウセンカ	2
	その他	4	その他	3
	15 種類	32	8 種類	7

1 年生ではアサガオの栽培がほとんどを占めている。生活科のカリキュラムに位置づき、一人一鉢で 2 年生からもらった種を育てていく。2 年生の野菜栽培活動が、他の学年に比べて突出して多い。これも、生活科のカリキュラムに野菜栽培が位置付けられていることが考えられる。この学習では、自分たちで育てたい夏野菜を選択しグループや個人で野菜を育てていく。

3 年生では理科の学習と結び付けてキャベツ（単元「チョウを育てよう」）を育てたり、ホウセンカ

(単元「植物を育てよう」)を育てたりする活動が多い。4年生以上でも、理科の学習のために4年生でヘチマ(単元「季節と生き物」)5年生で社会科の授業「わたしたちの食生活と米作り」の一環として稲作体験,理科の「植物の発芽と成長」でインゲン豆を育てる。6年生では,単元「植物の成長と日光のかかわり」においてジャガイモを育てている。<sup>13) 14)</sup>

小学校では,このようにつけたい力やねらいが先にあるのではなく,どちらかというカリキュラムに則って植物を栽培する計画を立てている。

### 4.3 植物を栽培することの教育的効果に対する意識調査結果

植物を栽培することの教育的効果について,アンケート調査を行った。

とてもあると思う    まあまああると思う    あまり期待できない    期待できない

の4項目から選択してもらった。幼稚園・こども園,小学校での調査の結果が図1である。

【幼稚園・こども園】

植物栽培の教育的効果	回答数(人)
とてもあると思う	55
まあまああると思う	12
あまり期待できない	0
期待できない	0

【小学校】

植物栽培の教育的効果	回答数(人)
とてもあると思う	79
まあまああると思う	66
あまり期待できない	1
期待できない	2
無回答	7

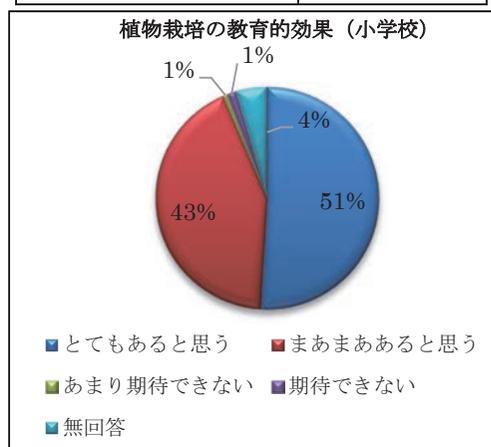
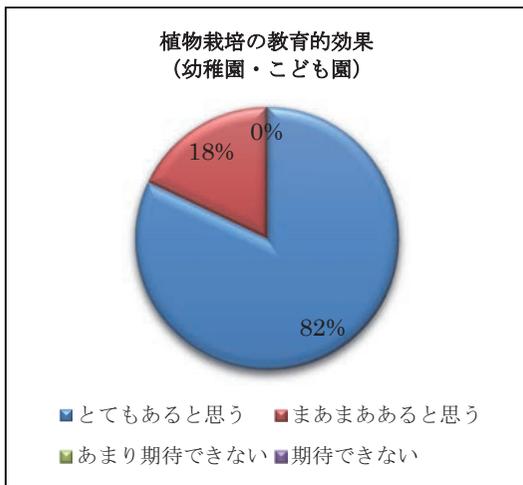


図1. 植物栽培の教育的効果についての意識調査

幼稚園・こども園の教員，小学校教員どちらも植物の栽培には教育的効果を認めていることがわかる。では，それぞれどのような教育的効果を認め，また期待しているのだろうか。次に，植物栽培における教育的効果の具体について調査した。11の項目から複数選択してもらった結果が表4・図2である。また11項目以外に考えられる教育手効果について自由記述をしてもらった。

表4. 植物栽培の教育的効果について

【幼稚園・こども園教員67名】			【小学校教員155名】		
教育的効果	回答数	割合 (%)	教育的効果	回答数	割合 (%)
命・自然を大切にする心	54	81	命・自然を大切にする心	125	81
観察力	54	81	観察力	71	46
知的好奇心	43	64	知的好奇心	43	28
豊かな感性	41	61	豊かな感性	115	74
言葉による伝え合い	35	52	言葉による伝え合い	80	52
栽培に関する知識，技能	30	45	栽培に関する知識，技能	10	6
自立心	28	42	自立心	11	7
協同性	22	33	協同性	48	31
科学的な見方・考え方	20	30	科学的な見方・考え方	21	14
表現力	16	24	表現力	13	8
社会生活とのかかわり	12	18	社会生活とのかかわり	15	10
道徳性・規範意識	11	16	道徳性・規範意識	13	8

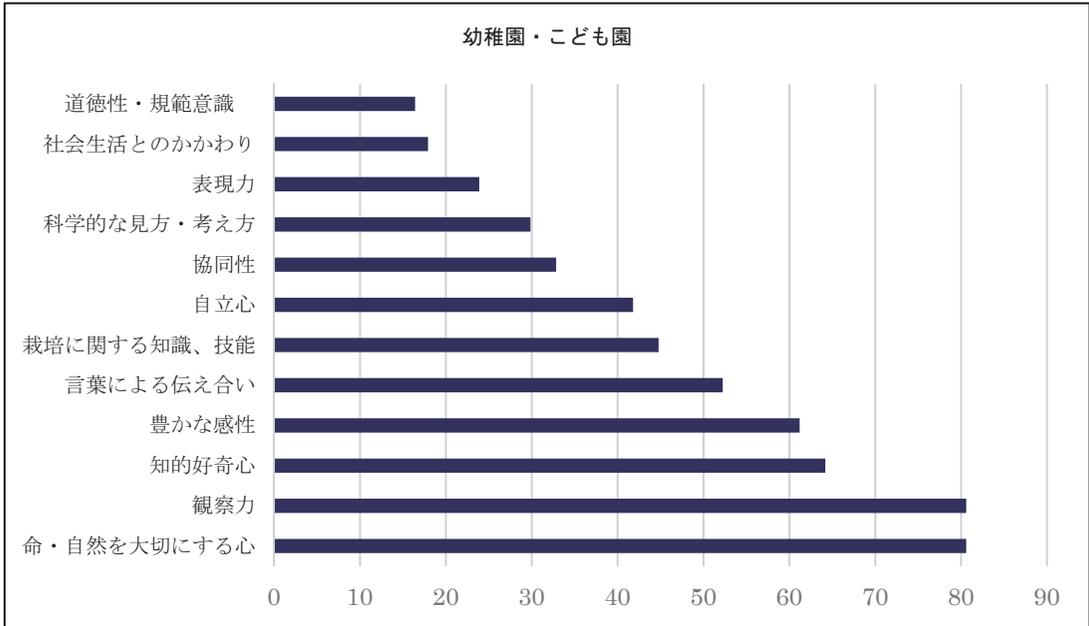
**自由記述(幼稚園・こども園)**(記入者26名)

- ・偏食をなくすことができる(12名)
- ・数量図形への興味関心(2名) ・人権感覚(2名) ・食への感謝の気持ち(2名)
- ・根気強さ(2名) ・思いやり(2名) ・責任感(1名) 愛着(1名) 探求心(1名)
- ・心が落ち着く(1名)

**自由記述(小学校)**(記入者16名)

- ・食に対する意識(3名) ・思いやり(2名) ・収穫の喜び(2名) ・達成感(2名)
- ・責任感(2名) ・いのちの不思議(1名) ・愛着(1名) ・母性(1名)
- ・いのちの大切さ(1名) ・自然とのふれあい(1名)

【幼稚園・こども園】



【小学校】

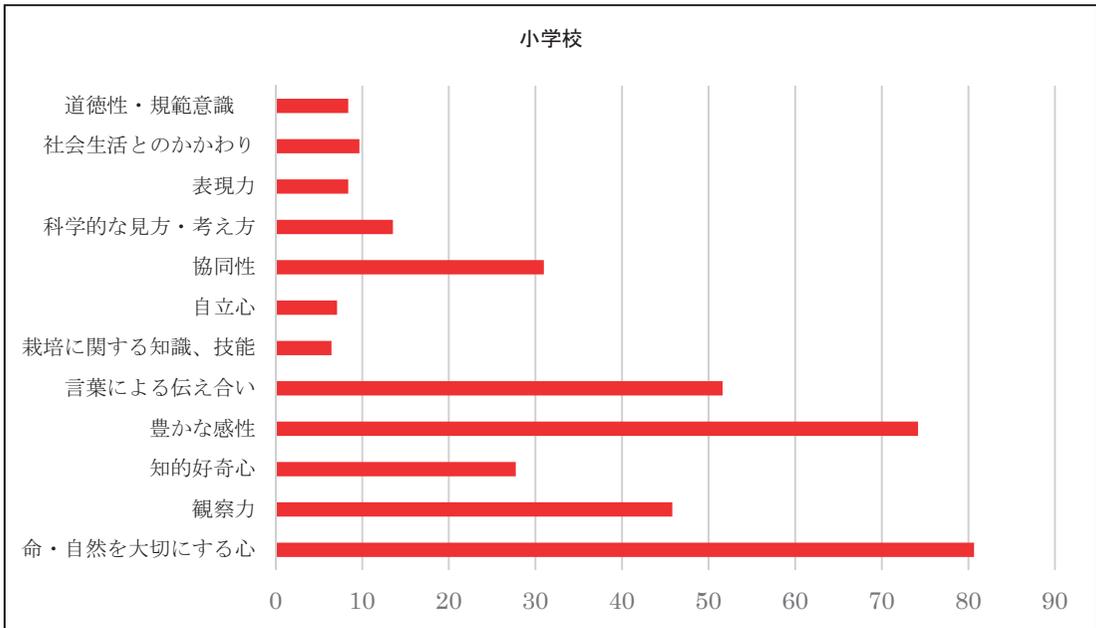


図 2. 植物栽培の教育的効果について

## 5. アサガオの栽培における教育的効果の意識調査

次に幼稚園でも小学校でも同じように一人一鉢で栽培しているアサガオの栽培に視点当て、それぞれどのような教育的効果を期待して栽培活動を行っているのかについて記述してもらった。

同じ活動であっても、幼稚園と小学校ではその教育的なねらいに違いがあるはずである。教員がどんなねらいを意識しているのかを調査した。記述欄に記述した人数は表5の通りである。

表5. 記述欄に記入した人数

校 園	回答者(記述した人数)	無回答率
幼稚園・こども園(67名)	61名	9%
小学校(155名)	96名	38%

次に、何のために(どんな力を育てるために)アサガオを一人一鉢で育てるのか自由記述した内容を幼稚園・こども園、小学校別にまとめた。(図3)

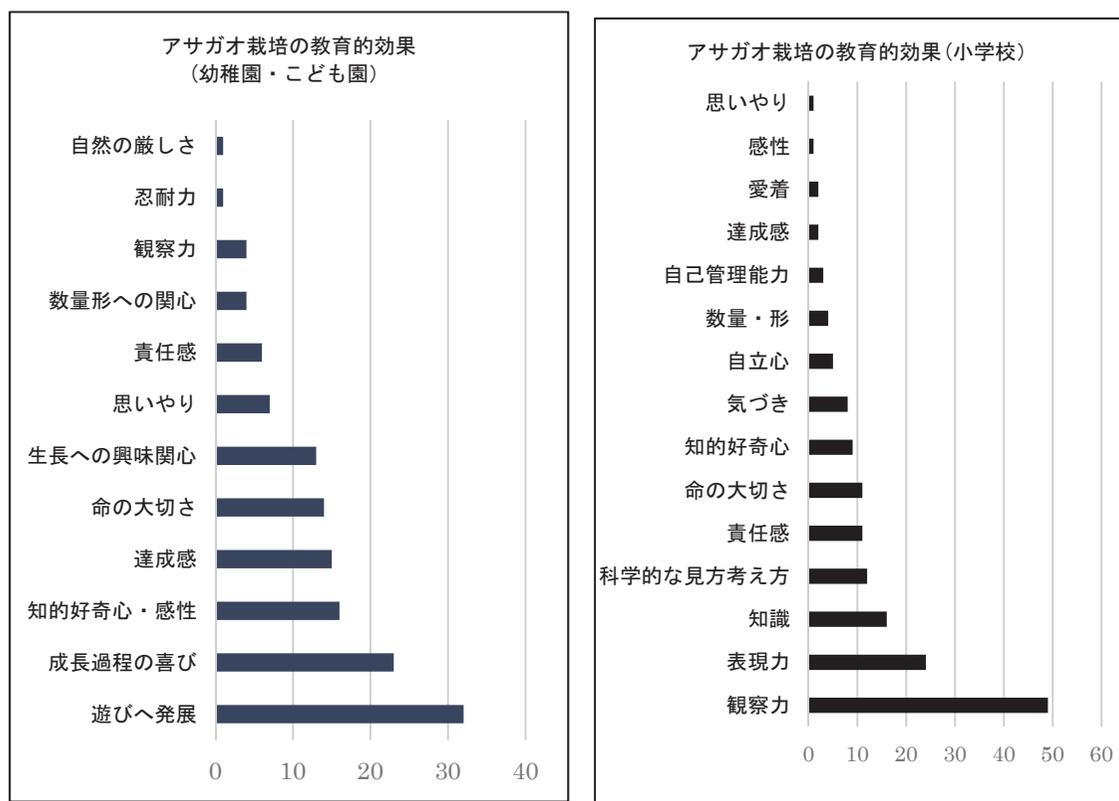


図3. アサガオ栽培の教育的効果について

## 6. 考察

まず、幼稚園・こども園と小学校における植物栽培の実態を見てみると、圧倒的に幼稚園・こども園の方が小学校に比べ植物の種類や栽培頻度が多い。環境を通して学ぶ幼児教育では、植物栽培は重要な環境として位置づいていることがわかる。それに比べ小学校では、植物栽培活動を生活科や理科、社会科等の教科学習の一環として扱うことがほとんどである。

次に栽培活動における教育的効果について調査した結果から、幼稚園教員の方が小学校教員よりも栽培活動における教育的効果を強く感じていることがわかる。(図4より) また、“どんな教育的効果があるか”に対しては、幼稚園・こども園教員も小学校教員も「命・自然を大切に作る心」「豊かな感性」を挙げている。ただ、小学校教員の傾向として、幼稚園こども園教員よりも、多岐にわたる教育的効果については期待していないようである。(図5より) 幼稚園・こども園は、明確なねらいをより意識していると考えられる。

このことは、アサガオ栽培に特化した調査においても鑑みることができる。アサガオ栽培に関して教育的効果について自由記述してもらったが、無回答率に大きな差が出た。幼稚園・こども園の教員が記述した割合は91%、小学校においては62%であり、幼稚園・こども園教員の方が教育的効果を意識して栽培をしていると考えられる。また、教育的効果については幼稚園こども園が「遊びへの発展」を挙げているに対し、小学校では「観察力」を挙げている教員が多い。これは、幼稚園こども園が“遊びを通して学ぶ”幼児教育の基本を大切にしていることから学びをつないでいくことを意識しているからだと考えられる。小学校では、3年生からの理科へのつながりを意識した栽培活動を実践していることが窺える。

## 7. おわりに

この調査をする動因として、小学校1年生でどの学校も実践している一人一鉢アサガオ栽培を行い、就学前教育においても多くの園が同じような実践をしているという事実が挙げられる。実際にどのような野菜や草花を育てているのか、その教育的効果やねらいをお互いどう捉えているのかについて調査をし、様々な事実が見えてきた。また、この調査を通して驚いたことは、小学校教員は幼稚園こども園でどのような栽培活動をしていたのかについてほとんど知らないし、その反対に幼稚園こども園教員も小学校でどのような栽培活動をしていたのかについてほとんど知らないという実態である。

就学前・小学校との接続が思うようにいかない原因の一つがお互いの教育活動を理解できていないことが挙げられる。栽培活動一つとっても、お互いどんなねらいで、どんな野菜や草花を育てているのか理解しないまま例年通りの活動を周到している学校園もあるのではないだろうか。就学前・小学校との接続とは「学びの接続」であるべきである。

今後は、栽培活動の一つの手がかりとして就学前教育と小学校教育を学びで接続していく手立てについて考えていきたいと考える。

## 謝辞

本研究遂行においては、守山市の幼稚園の先生方、小学校の先生方の協力をいただいている。これらのことを付記し、深く御礼を申し上げます。

## 文献

- 1) 「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）」(2017) p18 チャイルド本社
- 2) 「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）」(2017) p46 チャイルド本社
- 3) 「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）」(2017) pp84-85 チャイルド本社
- 4) 文部科学省 (2018) 「幼稚園教育要領解説」 p193, p203, p212 フレーベル館
- 5) 文部科学省 (2018) 「小学校学習指導要領」 pp112-113 東洋館出版社
- 6) 市川須美子他(2017) 「教育小六法 2017」 p432 学陽書房
- 7) 文部科学省(2018) 「小学校指導要領解説 生活編」 pp43-44
- 8) 古郡曜子, 山口宗兼(2012) 「幼稚園における食育カリキュラム作成に関わる基礎的研究－幼稚園教諭へのインタビュー調査を通して－」 北海道文教大学研究紀要 36 pp23-34
- 9) 木田春代, 武田文, 荒川義人(2016) 「幼稚園における野菜栽培活動が幼児の偏食に及ぼす影響-トマト裁判に関する検討-」 栄養学雑誌 Vol.74No.1 pp20
- 10) 酒井幸子, 守巧編著(2016) 「保育内容環境 あなたならどうしますか？」 p144 萌文書林
- 11) 位田かづ代(2017) 「保育内容「環境」における野菜栽培活動の教育的効果」 岐阜女子大学紀要 第47号 pp55-65
- 12) 小学校理科 指導計画に関する資料「栽培・採集／飼育・採集年間一覧表」(2019)大日本図書  
[https://www.dainippon-tosho.co.jp/rika/files/pdf/r2\\_rika\\_saibaishiiku.pdf](https://www.dainippon-tosho.co.jp/rika/files/pdf/r2_rika_saibaishiiku.pdf)
- 13) 小学校社会 年間指導計画・評価計画資料 6年単元構成一覧表(2019)光村図書  
[https://www.mitsumura-tosho.co.jp/27skyokasho/download/shakai/27sha\\_tangen.pdf](https://www.mitsumura-tosho.co.jp/27skyokasho/download/shakai/27sha_tangen.pdf)

※この研究は滋賀短期大学研究倫理審査委員会の審査を受け承認済みです。